

Dé-Sign (脱記号) 18 — Home — 映像学科 大津はつね

Dé-Sign 18 — Home — Department of Imaging Art OHTSU Hatsune



ここ数年の間に、次々と馴染みの場所であった<HOME- (母校や育った家)>が消えていく。そして、これらは管理化された高層ビル群に取って代わっていく。それでも、我々の記憶の中には<Home>が存在している。

それらは、建物や場所の持つ記憶であり、その場所で一緒に過ごした人々の気配でもある。我々にとっては、建物が消えてしまう事でその場所での記憶も一緒に消えてしまうような感覚があり、母校や実家の建物が壊される直前になると慌てて撮影してきた。

従って、最初から作品の為に撮影したのではなく、日常的な出来事として撮影してきた映像素材を再構成したのが本作品である。

感傷に浸っているわけではない。馴染みの景色が変容し、街がどこも似たような画一化したビルディングで埋め尽くされていく様子は、まるで過去の記憶を消去していくようにさえ感じるのだ。

現代社会では、インターネットによってあらゆる場所が情報化されて検索可能になりつつある。しかし、<Home=心の故郷>は検索カテゴリにない場所なのである。

我々の子供たちの世代にとって、<Home>は存続可能なのだろうか？

日常生活に忍び込んでくる個人へのこのような重圧を意識下へと追いやり、あきらめ続けて日々を生きていくのか？ 今、この瞬間でさえ<Home=心の故郷>は、解体され続けているのである。

VISUAL BRAINS (風間 正+大津はつね)

スタッフ・キャスト

制作：ビジュアル・ブレインズ (風間 正+大津はつね)

音楽：クリストフ・シャルル AD：田中 綾子

訳：ダニエル・クラーク・須藤

2007年/17分/カラー/ステレオ/VTR/







